

昨年販売された雑誌に載っていた内容をお知らせします。保護者のみなさま、子どもの自己主張にどのように対応しているのでしょうか？もし、参考になればと思いお知らせします。(PHPのびのび子育て 11月号(2019年) 株式会社 PHP研究所)

なお、来月と2回に渡ってお知らせします。最初に、「こんなわがままは言うとおりにしたらいけない」を、次回「子どもの自己主張で言うとおりにしてもいい内容」をお知らせします。

こんなわがままは言うとおりにしたらいけない

● 金銭的なこと

お子さんと一緒に買い物に行けば食べたいお菓子が並んでいますし、ゲームやおもちゃもあり、ほしいものばかりです。

しかし、欲望はエスカレートしていきますから、歯止めをかけないと大変なことになります。

子どもが駄々をこねて何かをほしがるようなとき「泣きわめいて仕方がない・・・」と、親があっさり折れてしまうことは避けなければなりません。事前に、「買わない」「1つだけ」「何かのご褒美のときだけ」というような約束や制限をしっかりとしておくことです。

● 危険なこと

「危ない」ということを言葉で言っても、子どもはなかなか理解できないものです。子どもは自分の行動の結果を予測できませんから、ときには「お茶の入った湯呑みに触ると熱い」というように、少しの痛みを体験させることも必要かもしれません。

しかし、道路で急に飛び出したり、信号を無視したりといった、交通事故に遭う危険性があることについては、怖い目に合わせて体験させることができませんから、「絶対に危険である」ということをしっかりと教えたいたいものです。

● 倫理に反すること

まったくの自己中心的だった赤ちゃんの時代を過ぎて、2～3歳頃からは、しだいに自分以外の人を意識し、相手も自分と同じような存在であることを理解できるようになっていきます。

自分がいやなことは相手もいやなのだと、徐々にではありますが、わかるようになります。

「自分がされたいやなことは、してはいけない」「人をたたいたり、つねったりしてはいけない」「いくらほしくても、ひとのものを取ってはいけない」ということを、この時期にしっかりと身につけさせましょう。